

観光・直売農業に適した パッションフルーツ

露地栽培編

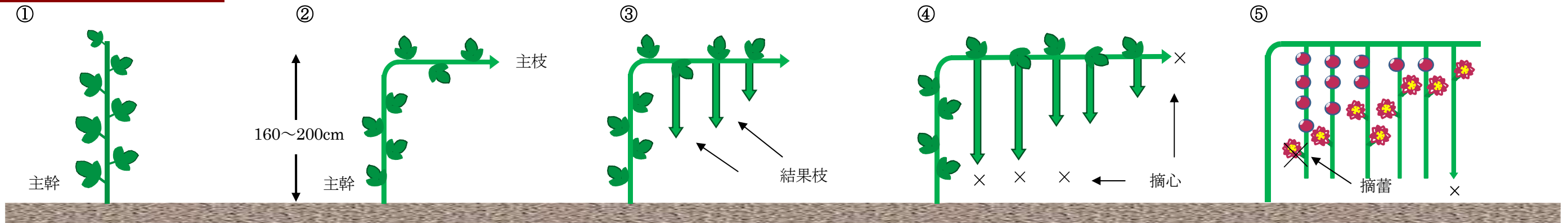


- ◇ 肥沃な土壌、十分な土壌水分、日当たり、夏涼しい気候を好みます。県南の海岸に近い地域の8～11月収穫に適します。
- ◇ 目標品質 一果重 100 g、収穫時屈折糖度計示度 Brix 値 19 以上、滴定酸度（クエン酸換算）2.0%程度
- ◇ 香りと酸味があり、加工にも適します。βカロテン、クエン酸、ビタミンCが豊富です。

栽培暦

月	5			6			7			8			9			10			11			12		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主な作業	定植																							
	主幹と主枝の育成																							
	結果枝の育成																							
	芽かき																							
	人工受粉																							
	摘蕾																							
基肥	基肥																							
	追肥						追肥						追肥						追肥					
	袋かけ																							
	収穫・出荷																							

仕立て方 着果管理



①主幹の育成

5月上旬に苗を定植し、架線（または棚面）に届くまでは、花芽、腋芽、巻きひげを全て除去し1本で直立に伸長させます。

②主枝の育成

主幹の摘心はせず、架線に届く下で横に曲げます。腋芽の発生方向が地面と平行になるよう架線上に誘引し伸長させて主枝とします。

主枝上の花芽と巻きひげは全て除去し、隣接樹に達したところで摘心します。腋芽は結果枝として伸長させ、隣同士の葉が重ならない程度の間隔で前後にバランスよく残します。それ以外の主枝上の腋芽は早めに芽かきします。芽かき後に再萌芽するので、見つけ次第再度芽かきします。

③④結果枝の育成

結果枝上の腋芽と巻きひげは小さいうちに全て除去します。腋芽は再度萌芽するので、その都度芽かきします。結果枝の発生基部から発生する腋芽も芽かきします。結果枝は下方に自然に垂らし、地面から20～30cmの高さで摘心します。

⑤摘蕾・摘果

果実は1結果枝当たり4果とし、それ以外は摘蕾・摘果します。開花2週間後以降に小果、傷果等を摘果します。

栽培系統

「紫 100 g 玉」を使用します。この名称は、ムラサキクダモノトケイソウとキイロクダモノトケイソウの交雑種のうち、品種登録されておらず果皮が紫色で一果重が 100 g 程度の種類の総称です。果実品質は良好で、千葉県で露地栽培した場合、5～6月のやや低温時期にも生育するため、8月以降に収穫可能です。自家和合性で、果皮は濃紫色で果形は球形です。

苗木の育成

千葉県では露地で越冬できないので、毎年9月以降に挿し木を行い、翌年用の苗木を育成します。

・挿し木の時期と用土の準備

挿し木は収穫後に腋芽が再萌芽した頃が適期です。

用土は肥料を含まず、排水性がよいことが必要です。市販の挿し木用土や川砂を用います。中粒以上の大きさに粒径が揃っていれば鹿沼土や赤玉土も使用できます。

・穂の準備と挿し木

挿し木当日に穂を採取します。葉色が濃く、新芽が 0.5～2 cm 前後に伸長した充実した枝を使います。枝先と枝元は使用しません。新芽を上にし、その下2節で挿し穂とします。

先端の成葉は 1/3 程度に切除します。その他の成葉と巻きひげは基部から切除し、節の直下は両側から斜めに切り下ろします。

穴あき育苗箱等の容器に用土を充填した後、たっぷりかん水し、挿し木します。挿す深さは挿し穂の長さによりますが、安定するよう全体の 1/3～1/2 を用土中に挿します。

・挿し木後の管理

直射日光や雨、風が当たらない場所に置きます。発根の適温は 25℃ です。さし床容器は排水を良くするため、通気性の良い台（コンテナ、すのこ等）の上に置きます。

発根したら 3～4号ビニール鉢に鉢上げし、液肥と I B 化成を 1 鉢当たり 5 粒程度を施用します。次に根が鉢土全体に回る前に 6～7号の鉢に鉢上げし、液肥と I B 化成を 1 鉢当たり 10 粒程度を施用し、支柱を立てます。生育が旺盛なので土壌の過乾燥防止に留意します。腋芽と巻きひげ、花芽は小さいうちに全て除去します。越年して育苗しますので、最低気温 5℃ に加温します。



施肥

pH 5.5～6.5 で、排水性と保水性の良い土壌が栽培に適します。定植 2 週間前に牛ふん堆肥を 1 樹当たり 10kg 施用します。基肥は定植時に有機配合(8-8-8)を 1 樹当たり 200 g、追肥として同肥料を 6 月下旬、7 月中旬、8 月上旬、9 月中旬に各 1 樹当たり 575 g、合計窒素成分量で 1 樹当たり 200 g 施用します。

定植

4 月中旬以前に植えても、低温のため生育は早まりません。4 月下旬から 5 月上旬のうち、定植後数日間は強風、多雨、降霜に遭わないよう天候が安定する日を選んで植え付けます。定植後は黒マルチを張り、初期生育を促進します。主枝を誘引する支線は、高さを栽培者の身長+10～

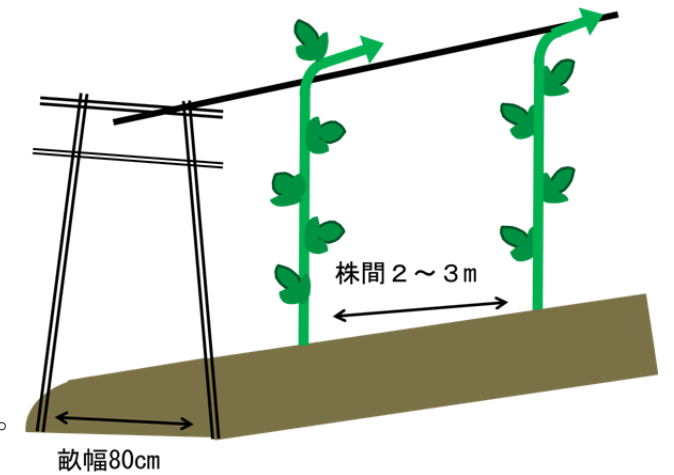
20cm とすると作業がしやすいです。

定植時の苗の草丈は 150cm 程度、畝幅 80cm、1 条植え、株間 2～3 m、畝間 2 m、栽植株数は 10a 当たり 167～250 本とします。

受粉と袋掛け

開花当日に、柱頭が水平になった時から、午後 3 時頃までに、同じ花の葯から筆で花粉を採取し、3 本の柱頭全てに丁寧に人工受粉します。花がらを残すとその部分の着色が遅れるため除去します。

袋掛けはブドウ用果実袋等を用い、開花 40 日後頃までに実施します。



開花した直後 柱頭は立っています



柱頭が水平になったら受粉します

病虫害防除

新芽がアザミウマ類に加害されることがあります。登録農薬を発生初期に散布します。

ウイルス病 (East Asian Passiflora virus) は、いったん侵入すると産地が壊滅するほどの甚大な被害を及ぼします。ウイルス病対策として、苗木や穂木を導入する際には、必ず未発生地域 (千葉県を含む) から導入するか、ウイルスフリー苗を購入します。

収穫・出荷・食べ方

開花後 60 日前後で成熟し、果実袋の中に落果した果実を収集します。

収穫最盛期は 9～10 月で、収量は 10 a 当たり約 700kg (7,000 個) です。

収穫後は常温で保管し、直ちに出荷あるいは食べることができます。果皮にしわができるまで待つ必要はありません。ただし、夏期高温時に果皮の着色が不十分な果実については、いったん 20～25℃ の明るい場所に密封せずに保管します。3 日前後で果皮が完全に着色した果実は出荷あるいは食べることができます。食べる数時間前に冷蔵すると一層おいしく食べることができます。包丁で果実を半分に切り、スプーンですくい種子ごと食べます。